vinetur

英国の宿泊・飲食業、10月の給与台帳上の雇用者数が2.7%減 全業種で最大の落ち込み

税務記録によると、宿泊・飲食サービス業の雇用者数は経済全体を大幅に上回るペースで減少。全体の給与台帳上の雇用者数は0.3%減だった。

2026年11月17日（火）



英国の宿泊・飲食業では、10月の給与台帳上の雇用者数が経済全体よりも大幅に減少した。英国国家統計局と歳入関税庁が11月17日（火）に発表した、税務記録に基づく速報値で明らかになった。

両機関が共同で発表した雇用・賃金に関する報告書によると、宿泊・飲食サービス業の給与台帳上の雇用者数は、2025年10月に比べて2.7%減少した。この数値は季節調整済みで、正式な給与雇用を把握する源泉徴収制度（Pay As You Earn）の記録に基づいている。

これにより、宿泊・飲食業は報告書で取り上げられた業種の中で、前年比の減少幅が最も大きくなっ

た。英国経済全体では、給与台帳上の雇用者数が前年から0.3%減少し、人数にして9万5,000人減となった。宿泊・飲食サービス業の減少率は、全国の減少率を2.4ポイント上回った。

このデータは、ホテル、レストラン、パブ、カフェなど、宿泊・飲食関連事業を含む業種で、正式な雇用市場が弱含んでいることを示している。報告書は減少の具体的な要因を挙げていない。また、10月の推計値は速報値であり、給与関連情報が追加されるにつれて改定される可能性があるとしている。

同業種の賃金も全国水準を大きく下回った。10月の宿泊・飲食サービス業の月間賃金の中央値はGBP1,464で、経済全体のGBP2,669と比べて低かった。宿泊・飲食業の労働者は、給与台帳上の雇用者全体の中央値より月額でGBP1,205少なかったことになる。

この数値は企業調査ではなく行政の税務データに基づいており、正式な雇用動向を示す指標として注目されている。給与支払いの申告から作成されるため、税制を通じて賃金を支払われる従業員は把握できる一方、通常の給与台帳を介さない働き方はすべて網羅していない。

宿泊・飲食業は以前から、賃金水準の低さに加え、消費支出、季節需要、運営コストの変化に影響されやすい労働力を抱える業種として知られてきた。新たなデータによると、少なくとも給与台帳上では、同業種は10月も経済全体より速いペースで雇用を減らし、後れを広げた。

統計局と税務当局の共同報告書は、10月の数値を初期推計として示した。月次の給与台帳データは、特に直近の月について、企業が初回公表後に申告内容を更新するため、改定されることが珍しくない。

こうした留保はあるものの、10月の数値は宿泊・飲食サービス業が経済全体に比べて著しく弱い状況にあることを示している。同業種は、発表で取り上げられた業種の中で減少率が最も大きかっただけでなく、給与台帳上の雇用者のうち月間賃金の中央値が最も低い業種の一つでもあった。